

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「真ん中」

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。(ヨハネ20:26)

先日、全国11教区で定期教区会が行なわれ、様々な実りや課題の報告がなされ、新しい1年に向けての計画や予算が審議されました。教区に属する教会は、その建てられた地域において、教会内はもちろん地域の人びとに真摯に関わり、心安らげる空間としての建物や交わりを目指しています。その為には当然、少なくともお金や人材が必要で、私たちの心配事は尽きません。ともすれば内向的な発想にとらわれがちですが、何のために、誰のために教会があるのか、教会が希望を語らなければ、信仰を現さなければ、愛の業を行なっていかなければという思いを忘れずになりたいと思います。自分たちだけの癒しの空間としてしまうのか、地域の方々にほっこりとしていただけるような交わりや空間を作り出せるのか、真剣に考えるチャンスが与えられています。

2012年の宣教協議会で「<宣教・牧会の十年>提言」が出されています。日本聖公会の宣教の姿勢はこうですではなく、集まった私たちは、このように考えますが、いかがでしょうか?それぞれの教会では、宣教をどのように考え、実践していこうとされますか?という問いかけです。どの教会も、初期は数名の信徒と教役者が小さな努力を積み重ねながら、その交わりが形成され、地域に根付いた教会として今日に至っているはずです。教会の弱体化を嘆くのではなく、教会が置かれた地域の中で、何が必要とされているのか、たとえ小さな働きであっても、ていねいに関わっていくこと、声にならない声を聞ける雰囲気をつくり出していくことが大切だと確認されました。

私たちは、イエスさまの生き様に習いたい、真理に従って生きたいと心で願いながら、イエスさまを十字架につけた民衆でもあります。信仰と希望と愛に生きたいと思いながらも、現実的なしごきに深く影響を受けながら生活をしています。圧倒的に危機的な状況の中においてもイエスさまは恐れずに神さまの真理を貫き通されました。私たちの目には不利なこと、マイナスなこと、理

□会議・プログラム等予定

(11月25日以降および
前回報告以降追加)

11月

- 25日(水) 常議員会〔管区事務所〕
- 26日(木) 教役者遺児教育基金運営委員会・建築金融資金運営委員会〔管区事務所〕
- 27日(金) 宣教協働者招聘委員会〔管区事務所〕
- 27日(金) 第1回聖公会神学フォーラム〔京都〕

12月

- 1日(火)～4日(金) 日韓協働合同会議〔韓国/ソウル〕
- 3日(木) 文書保管委員会〔管区事務所〕
- 4日(金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会〔立教大学・太刀川記念館〕
- 10日(木) 原発と放射能に関する特別問題プロジェクト運営委員会〔管区事務所〕
- 11日(金)～12日(土) 各教区財政担当者連絡協議会〔管区事務所〕
- 12日(土) 正義と平和・憲法プロジェクト〔中部教区センター〕
- 28日(月)～29日(火) 正義と平和・ジェンダープロジェクト〔聖パウロ教会/東京〕

☆12月25日(金)は降誕日礼拝のため管区事務所業務をお休みいたします。

📅管区事務所の冬休み 12月30日(水)～1月5日(火) 管区事務所業務をお休みいたします。よろしくお願ひいたします。

2016年

1月

- 10日(日)～11日(月) アジア青年大会準備会〔名古屋〕
- 11日(月) 青年委員会〔名古屋〕
- 14日(木) 日韓協働プロジェクト会議
- 14日(木) 主事会議〔管区事務所〕
- 18日(月) ウィリアムズ主教記念基金委員会〔立教大学〕
- 18日(月) 人権問題担当者会議〔管区事務所〕
- 19日(月) 狭山現地学習会〔狭山〕

(次頁へ続く)

不応だと思われることから、神さまの真理と栄光が現されます。その逆説の真理を示すために、イエスさまは希望の光としてこの世に來られたことを覚え、クリスマスの準備を始めていきたいと思ひます。

イエスさまは私たちの「真ん中」に立ち、弱い立場におかれた人々を真ん中に招き入れられました。私たちは誰を真ん中に招き入れるのでしょうか。



(前頁より)

- 19日(火) 常議員会〔管区事務所〕
 20日(水) 原発と放射能に関する特別問題プロジェクト研究・広報チーム会〔管区事務所〕
 22日(金) 女性の聖職に関わる特別委員会〔管区事務所〕

<関係諸団体等会議・他>

- 11月30日(月) 日本宣教会議実行委員会〔東陽町〕
 12月14日(月) 日本キリスト教連合会常任委員会〔潮見〕
 20日(日) 子どもとオペラ・王子とクリスマス〔川崎〕

2016年

- 1月12日(火) NCC 役員会〔東陽町〕
 17日(日) NCC カトリック一致祈祷集会〔三光教会 / 東京〕
 28日(木) ~ 29日(金) 外キ協全国協議会〔在日本韓国YMCA / 東京〕

□主事会議

第61(定期) 総会期第7回 11月12日(木)

<主な報告・協議>

1. 北関東教区より申請のあった「聖バルナバミッションとリー女史記念事業推進委員会計画」に関する伝道強化計画書(大齋克己献金応援対象)に関して、検討・協議のうえ、主事会議としては仮承認のうえ、常議員会へ提案することとした。
2. 日本聖書協会からの「日本語聖書新翻訳事業」協賛依頼に関して、検討・協議の結果、1口 / 50万円を協賛することで承認した。
3. 財政主事より2015年度および2016年度管区一般会計収支予算の説明が行われ、検討の上、承認した。

次回以降の主事会議

2016年1月14日(木)、3月17日(木)

2015年教区会選出常置委員

北海道	聖職 信徒	大町信也(長) 久末隼一	下澤 昌 津田武典	池田 亨 三浦千晴
東北	聖職 信徒	越山健蔵(長) 赤坂有司	八木正言 坂水かよ	長谷川清純 竹石和己
北関東	聖職 信徒	矢萩栄司(長) 谷川 誠	小野寺 達 横川 浩	木村直樹 菊池邦香
東京	聖職 信徒	高橋宏幸(長) 黒澤圭子	佐々木道人 後藤 務	笹森田鶴 松田正人
横浜	聖職 信徒	相澤牧人(長) 中林三平	入江 修 村井恵子	田澤利之 佐藤尚敏
中部	聖職 信徒	土井宏純(長) 岩田牧夫	中尾志朗 河西恵子	田中 誠 牛島達夫
京都	聖職 信徒	井田 泉(長) 安藤邦子	藤原健久 小野周一	宮嶋 眞 木川田道子
大阪	聖職 信徒	山本 眞(長) 畑野めぐみ	岩城 聰 長野泰信	竹林徑一 鈴木光子
神戸	聖職 信徒	上原信幸(長) 松田嘉彦	小林尚明 宮永好章	八代 智 大東正人
九州	聖職 信徒	山崎貞司(長) 秋山献之	小林史明 東 美香子	牛島幹夫 細川眞二
沖縄	聖職 信徒	戸塚鉄也(長) 洲鎌君代	高良孝太郎 知花阿佐子	金 汀洙 宮城正子

□各教区

北関東

・教務所主事 2015年10月末をもって教務所

主事が伊藤洋爾氏(大宮)から、養田博氏(浦和)に交代。

東京

- ・聖職接手式 2016年1月9日(土) 10時半
聖アンデレ主教座聖堂 説教:司祭 市原信太郎(中部) 執事接手:志願者 聖職候補生 ヨセフ太田信三



†逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 ラザロ雨宮大朔(北海道教区・退職)

2015年11月19日(木) 逝去(74歳)

主教 パウロ伊藤 宏(ブラジル聖公会サンパウロ教区主教・退職) 2015年11月15日(日) 逝去(76歳)

📖 出版物案内

『2016年度 教会暦・日課表』

2015年10月15日付発行 価300円(税込)

ご注文は管区事務所にお問い合わせいたします。

《人 事》

北海道

聖職候補生 クリストファー永谷 亮 2015年11月23日 公会の執事に接手される。

北関東

聖職候補生 マリア越智容子 2015年11月3日 公会の執事に接手される。

東京

聖職候補生 ヨハネ塚田重太郎 2015年10月19日 公会の執事に接手される。

横浜

司祭 マルコ高田 眞 2016年3月31日付 定年により退職とする。

司祭 マルコ高田 眞(退) 2016年4月1日付 主教ローレンス三鍋裕のもとで、茂原昇天教会において、嘱託司祭(定住)として勤務することを委嘱する。(任期1年)

司祭 マルコ河崎 望 2016年3月31日付 定年により退職とする。

司祭 マルコ河崎 望(退) 2016年4月1日付 主教ローレンス三鍋裕のもとで、横浜聖クリストファー教会において、嘱託司祭(定住)として勤務することを委嘱する。(任期1年)

司祭 ダビデ渡部明央 2016年3月31日付 横浜聖クリストファー教会牧師およびベタニヤホームチャプレンの任を解く。

司祭 エドワード宇津山武志 2016年4月1日付 藤沢聖マルコ教会牧師に任命する。

司祭 エドワード宇津山武志 2016年3月31日付 藤沢聖マルコ教会牧師の任を解く。

	2016年4月1日付	平塚聖マリヤ教会牧師および大磯聖ステパノ礼拝堂管理牧師に任命する。
司祭 バルナバ田澤利之	2016年3月31日付	平塚聖マリヤ教会牧師および大磯聖ステパノ礼拝堂管理牧師の任を解く。
	2016年4月1日付	千葉復活教会牧師および福田聖公会管理牧師に任命する。
司祭 ペテロ松田 浩	2016年4月1日付	伊豆聖マリヤ教会管理牧師に任命する。
聖職候補生 パウロ窪田真人	2016年3月31日付	横浜山手聖公会勤務を解く。
	2016年4月1日付	司祭ペテロ松田浩のもとで、伊豆聖マリヤ教会で勤務することを命じる。
聖職候補生 テモテ姜 炯俊	2016年3月31日付	横浜聖アンデレ教会勤務を解く。
	2016年4月1日付	主教ローレンス三鍋裕のもとで、松戸聖パウロ教会で勤務することを命じる。
司祭 サムエル小林祐二	2016年4月1日付	ベタニヤホームチャプレンに任命する。
主教 ローレンス三鍋 裕	2016年3月31日付	伊豆聖マリヤ教会管理牧師を解任する。
	2016年4月1日付	横浜聖クリストファー教会管理牧師、茂原昇天教会管理牧師および八日市場聖三一教会管理牧師に任命する。
司祭 ジェローム村上守旦	2016年4月1日付	主教ローレンス三鍋裕のもとで、松戸聖パウロ教会および柏聖アンデレ教会において、囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)

中部

司祭 アンブロージア後藤香織	2015年11月30日付	名古屋聖ヨハネ教会牧師、名古屋聖ステパノ教会管理牧師の任を解く。
	2015年12月1日付	名古屋聖マルコ教会牧師に任命する。
司祭 ペテロ田中 誠	2015年11月30日付	岐阜聖パウロ教会管理牧師の任を解く。
	2015年12月1日付	名古屋聖ヨハネ教会管理牧師を委嘱する。
主教 ペテロ渋谷一郎	2015年11月30日付	名古屋聖マルコ教会管理牧師の任を解く。
	2015年12月1日付	名古屋聖ステパノ教会管理牧師を委嘱する。
司祭 エリエゼル中尾志朗	2015年12月1日付	岐阜聖パウロ教会管理牧師を委嘱する。

神戸

テモテ 遠藤洋介	2015年10月21日付	日本聖公会聖職候補生に認可する。
----------	--------------	------------------



フィリピンの厳しい現実

—東アジア聖公会協議会総会に出席して—

神戸教区主教 アンデレ 中村 豊

4年に1回開催される東アジア聖公会総会には、日本聖公会から聖職代表として京都教区の小林聡司祭、信徒代表として篠田茜さん(京都教区)、青年代表は古沢はんなさん(九州教区)そして主教会代表として私が出席しました。

総会の目的

会場はフィリピン・マニラのホテルで、西はミャンマーから東は日本・韓国から総勢70名が集いました。総会では、協議会議長及び常任委員の選出、会計報告、常任委員会から提出される議案が協議されますが、これだけの内容であれば、1日もあれば十分です。協議会の目的は相互の交わりと、東アジア聖公会が一致しての協力が求められる共通の問題を分かち合うことであり、これに従って、5日間にわたり、「貧困」「移住者と人身売買」「地域紛争」をテーマに、専門家を招いて話を聞き、主教・聖職・信徒・青年が分かち合いのときを持ちました。テーマ全てに、フィリピンの現実が密接に関係しておりました。特に、貧困と移住問題について、NPO法人「I BON」の話には、私の目から見ると、フィリピンの将来に、悲観的な見方しかできないの思いを抱かざるを得ませんでした。

平均月収が4万円

フィリピンの人口約1億のうち、マニラに4千万人が住んでいます。路上生活者を加えれば数はいくらも増えるでしょう。フィリピンには製造業が少なく、釘さえ輸入に頼っているのです。1220万人の人たちに職はなく、ようやく職にありついている人の44%は非正規労働者です。毎日4500人が海外に脱出せざるを得ないことも納得できます。4百万人の子どもたちが学校に行かず、小学校卒業率は66%、高校のそれは43%です。農業従事者の70%は自分の土地をもたず、田

畑を耕すのに未だに牛を用います。収入は、労働者平均の半分です。土地所有者の三分の一が、全土の80%を所有し、大企業社長の月給は1740万円ですが、フィリピン人の平均月収は4万円です。1200万人が海外で居住しておりますが、その人たちの送金によって、残された家族が養われているのが実情なのです。

では、どのようにしたら生活の向上を図ることができるのでしょうか。産業を育成し雇用を図ること。教育を充実して、国の発展のための人材を確保するという2つの目標を講師は掲げておりました。

日本聖公会の現状報告

総会2日目の10月8日(水)午後、日本聖公会の現状を発表するときを迎えました。当然、主教である私が代表して、これを担当するものだと3人は思い込み、安心しきっていたようですが、折角このような機会を与えられているのですから、私がしゃしゃりである幕ではありません。パワーポイント操作は小林司祭が、篠田さんと古沢さんは、英語説明を担当することになりました。3人とも、このような場での英語での発表は初体験であり、不安と緊張は並大抵ではなかったかと推測します。事前に管区渉外主事・ポール・トルハースト司祭に英語原稿作成を依頼し、管区女性デスク設置、女性会議、ハラスメント防止問題を加えました。戦後70年を記念する諸行事、憲法第9条に関わる安保法制問題、東日本大震災救援活動など、日本聖公会のプレゼンテーションは、各管区・教区代表者にインパクトを与えたのではないのでしょうか。

聖ルカ教会訪問

10月12日(日)の朝、私たち日本人グループはケソン市の聖ルカ教会に向かいました。ホテル



聖ルカ教会主日礼拝後に

から車で約1時間かかって到着した扇形の教会は近代的で、その奥に集会室が設けられています。牧師のアルビン・メンドーザ司祭は、聖アンデレ神学校の組織神学教授ですが、メンドーザ司祭の家庭は貧しく、神学校の学費は、東京教区の高島司祭などが中心となって援助し、無事卒業することができたそうです。実は、この教会敷地や建物も、主に、日本からの献金によって購入されたのです。その礼拝堂も、近年、雨漏りが激しくなり、300万円かけての改修工事が必要となっております。礼拝後、テーブルに並べられた持ち寄りのご馳走に舌鼓を打ち、信徒の方々と楽しい歓談の時をもちました。

総会の選挙では、ミュン・ヒン・西マレーシア教区主教(次期東南アジア聖公会首座主教)が議長に、小林聡司祭が常任委員に選出されました。任期は4年です。



新しく選ばれた常任委員の方々

「祈禱書改正に関するアンケート」の結果報告

祈禱書改正準備委員 司祭 木村直樹

はじめに

昨年開かれた日本聖公会第61(定期)総会は、祈禱書改正準備委員会設置を決議しました。委員会は現在その作業を進めていますが、一方で教会、信徒の思いを知るために、アンケート調査を実施しました。アンケートの内容は以下の3点です。

①祈禱書が礼拝でどのように用いられているかについての調査。②新しい祈禱書の形態についての要望。③現行祈禱書への評価と新しい祈禱書への要望。④その他。

調査期間は、本年6月24日から7月18日で、調査方法は、教会用と個人用の2種類のアンケートを用意し、教会用に関しては各教区の祈禱書改正モニターが集約、個人用に関しては極力インターネットを利用した回答を勧めました。有効回答数は、教会用147件、個人用598件(内ネット回答316件)でした。個人から600近くの回答があったことは、祈禱書改正についての関心の深さを示していると言えます。以下に、アンケートの結果の概要について報告します。

①祈禱書が礼拝でどのように用いられているかについての調査結果

主日礼拝において祈禱書をどのような形で用いていますか、という問いに対して、祈禱書をそのまま用いている教会が69%、分冊版(緑色の表紙のもの)が29%、それ以外はコピーやワープロで教会独自の式文を作成しているとの回答でした。

②新しい祈禱書の形態についての要望

新しい祈禱書の形態(祈禱書にすべての式文を含むかどうか)について尋ねた問いについては、教会と個人で意見が分かれました。教会では、一冊本の形式を取りながらも内容を限定して分量を押さえ、収録できなかったものについては別冊で配布が44%と多数、個人では、祈禱書

自体が分厚くなっても、必要なものがすべて含まれる一冊本の形式がよいが、38%で多数でした。

祈禱書のサイズについては、現行祈禱書のサイズ(A6)が52%、聖歌集と同じサイズのA5版も30%を超える支持がありました。販売価格については、3000円以下の要望が85%でした。日本語以外の祈禱書の必要に尋ねたところ、半数以上が必要ないと答え、英語版の必要については42%でした。

③現行祈禱書への評価と新しい祈禱書への要望

現行祈禱書については、大きな不便不満を感じないが43%、多少の不便不満を感じるが49%でした。現行祈禱書に含まれていない式文で、新しい祈禱書に載せて欲しい式文を尋ねたところ(複数回答可)、「み言葉の礼拝」が67%、教会暦の特別な期節の式文が40%、葬送諸式が36%、20%を超えたのが、「子どもを中心とした主日礼拝式文」、「堅信式前の陪餐に関する諸式」でした。

④その他(個々人の祈禱書の使用状況など)

信徒が主日礼拝に祈禱書を持参するかどうかでは、持参しない人が57%、持参する人が38%でした。主日礼拝以外の祈禱書の使用については、「祈りの必要に迫られたとき」が50%を超え、諸祈禱の充実への需要があることが分かります。また若い世代ほど、電子本へのニーズが高くありました。

終わりに

自由回答欄には実に多様な意見が述べられており、聖公会信徒にとって祈禱書が大切なものであり、その充実への期待がよく分かるアンケートの結果でした。委員会は、このアンケートに励まされながら改正準備を進めてゆきます。

世界の聖公会の動向

渉外主事 司祭 ポール・トルハースト

○若者の貧困、紛争と移住へのメッセージ
 予定されていた東アジアの主教会がキャンセルになり、その会合に充てられていた予算がアジア青年大会に支出されることが可能となった。これは最近のCCEA(東アジア聖公会協議会)に参加した若者たちの活躍による成果である。

若者の代表団はフィリピンのマニラで開催されたCCEAに希望のメッセージをかかげた。協議会は、人身売買を含めた貧困、争い、移住に関する深刻で重い問題に焦点をあて、すべての議事に若い教会活動家も参加していた。“私たちは多くの問題に直面している”“しかし、教会はわたしたちに肯定的な未来を与えてくれる”と彼らは語った。

東アジアは極端な格差を特徴としている地域である。協議会では、フィリピン政府が定めている貧困ライン一日\$1.25で生活する人々がいる一方で、地域のひとにぎりの個人は想像を超える富を持っていることに改めて気付かされた。中央フィリピンのデキシー・タクロバオ主教は“貧富の差の激しさは明白で不名誉なことである”と語った。

フィリピンの人々の発言-集會会場での発言-は問題のある現実を解決出来ることも連想させた。島々は莫大な鉱物資源と人間の創意工夫を持つ、しかし経済学者のサミー・アフリカ博士は、貧困は事故ではなく必然的なもの、間違った社会のシステムの結果であることを実証した。

協議会では現在進行中の地域の緊張、再び高まっている韓国、日本、中国の国家間の緊張に加え、過激化するイスラムの問題を認識した。

このような重い主題にもかかわらず協議会は

希望と笑い声に満たされた、少なからずそれは各教区からの青年代表者の存在によるものだった。彼らは主教、大主教をも上回る数で積極的に参加した。それに対する応答として主教たちは当然彼らの次回の青年大会のスケジュールと聖公会の宣教の5指標に焦点を置く青年参加者に予算を割り当てた。彼らは、若者こそが宣教の重要な手であり、非常に有能な若者達であれば、その関係の形成は極めて重要になると確信している。

(注) CCEA とは、1930年に設立された聖公会の組織で、東南アジア、ミャンマー、香港、日本、韓国、フィリピンと台湾が会員諸国であり、オーストラリア聖公会とフィリピン独立教会が準会員である。

CCEAの総会は4年に1度、会員諸国は各教区主教、司祭、信徒、青年代表を派遣し、準会員諸教会もそれぞれの地域から同様に派遣し会合の時を持つ。

○英国聖公会の主教陣は英国政府に対して 難民危機についての応答を迫っている

英国聖公会は、英国政府に対して今後5年間に今より2倍以上の難民を大英帝国に再び定住させるようにと要請した。

84名の英国聖公会主教はデビッド・キャメロン首相宛の書簡で、政府にシリアからの20,000人と報告されている難民をこの国に再び定住させるにあたり“最低でも50,000人”に増加するように要請した。彼らはシリアの状況を“史上最悪の難民危機”とし、“この規模の道徳的な危機は、個々そして全員の役割を果たすために我々を呼び寄せています。”

“我々はこの国の偉大な伝統として神聖かつ高潔寛大な精神によって少なくとも10,000人を今年から2年間で再び定住させ、少なくともその数を5年間で50,000人に引き上げることが達成出来ると声明で予見していることを信じている”と主教陣の書簡で述べている。

“この数字は他国によって行なわれた救済と

同水準に及ぶ。それは、とても意味深く、我々が連日目にする人間苦の規模にも充実した対応となる。”

主教陣は、教会が難民に対して、住宅および食糧を提供することにより、難民を迎え入れるよう教会を奨励して、難民の再定住を援助することを、キャメロン首相に約束した。

○若者がウェールズの大主教を厳しく尋問

ウェールズの大主教、バリー・モーガン大主教、は最近16歳から24歳までの教区の若者たちから厳しい質問をうけることに同意した。

新しいオルガンの寄附というホットな話題とその失敗、より具体的な教会の生活の論点の提示、教会での大いなる挑戦者、信徒奉仕職の重要性。また祈りが本当に届くのかとの問いかけ、もしも神が誰をも赦すならそこに科学と宗教のぶつかり合いが存在するのか。

信徒奉仕職の重要性を問われれば、モーガン師は“すべて洗礼を受けた人々は奉仕職を持っており、それは聖職者達だけに与えられたものではない。教役者の仕事は、すべての神の民の奉仕職をはげまし、勇気づけることであり、なぜなら本来、ほとんどの人々が信仰に帰すのは偉大な説教や司祭の努力からではなく、家族や友人からの影響によるものだからだ。

“信徒は司祭よりも素晴らしい賜物を受けていて、宣教地域で我々の今日の教会は司祭と信徒の協働作業、若いも若きも神からの賜物を活かし、勇気を持つことにより成り立っている、”

“若い人たちをひきこむことが常に喜びであることとして、彼らは多大なエネルギーと熱意を持ち、私に向ける問いかけは明白なことだ。そして彼らの信仰について、はつらつとした熱意がある”とモーガン師は語った。

“彼らは私たちの会衆を豊かにし、命を吹き入れる。そして教会として私たちは若者を大切に、彼らの育成に出来る限りのことをしなければならない。そして彼らの話に耳を傾けなければならない。彼らは‘旅’を初めたばかりで、彼らの行く手を手助けすることは、その旅に、ことに

よると、僅かながら時間的経験のある私たちの責務となるかもしれない。”

○バミューダ島初のキリスト教奉仕研修コース
バミューダの聖公会教会とバミューダカレッジとカナダの大西洋神学校の協働に感謝し、バミューダ島での最初の永続的、エキシメニカル、キリスト教奉仕認可研修コースが一步実現に近づいた。バミューダは管区となっていない教区で現在10名の俸給を受ける司祭、2名の無俸給司祭と、補助として何名かの退職司祭、4名の信徒奉事者和其他の教会区地域奉仕者により奉仕されている。

目下、聖職志願者は外島に住み込み、研修施設に派遣されている。一方で、信徒奉事者はノッティンガムのセント・ジョンズカレッジの通信教育を取得している。

バミューダの主教、ニコラス・デイル師は新たに手始めとして教区を“‘バミューダ的’”にすることを希望し、この研修こそ私たち自身が見出す環境にふさわしく神の使命に参加することを可能にする。”と述べた。

“とても高水準の神学教育を独学で、あるいは、島を出ることなくバミューダに施すことが出来る素晴らしい機会だ。”とニコラス主教は語った。

主教は、ローマ・カトリック教会、アフリカ・メソジスト・エписコパル教会、バプテスト教会、救世軍、メソジスト教会、カナダ合同教会を含む他教派の指導者とも新しい協働についての話し合うほどの親交を持つ。

アント・プティ司祭は次のように語った。“バミューダ聖公会はNSM(Non Stipendiary Ministry=無給奉仕職)の叙任された奉仕職、認可された信徒奉仕職、若い働き手のような非公式奉仕職にまでも範囲を広げ、神学的土台としての奉仕職研修コースを用意したい。”



新刊紹介

ライオネル・チャモレー著 日本聖公会文書保管委員会編

「英国人宣教師ライオネル・チャモレー師の日記 ① 1888年—1900年」

諫山 禎一郎

これは、今から十年ほど前から、日本聖公会の文書保管委員だった名取氏たち三人（名取多嘉雄・大江真道・垣内茂）が、翻訳を担当され、塩田純子さんが校正を、その検討会議を五年ほど毎月続けられ、完成され、この程出版されたものである。名取氏は英文学者で元立教女学院短期大学学長、大江氏は京都教区退職司祭で日本聖公会歴史研究会前会長、垣内氏は横浜教区退職司祭で、英国にも牧会経験のある人である。著者のチャモレー師のフルネームは、Lionel Berners Cholmondeley で、ただチャモレーという名前は、読むのが難しく、日本では、当初チャーモンドレー、チャムリとも読まれていたといわれている。

彼は、1858年（安政5）にイギリスのグロスターのアドルストロップにあるマリア・マグダレン教会牧師館で生まれた。父ヘンリーは貴族出身で、その教会の牧師であり、母マリアも貴族出身で、兄フランシスもインド伝道に尽力した牧師であった。チャモレー家は、まさに英国の名門だった。彼は、1882年（明治15）、オックスフォード大学オリエンタル・カレッジを卒業し、1884年から1887年まで、トルーロのケンウィンで副牧師を務めた。1886年（明治19）に日本の宣教監督（今の主教のこと）になったピカステス師に勧められ、イギリス聖公会の伝道団体SPG（福音宣布協会と訳す、The Society for the Propagation of the Gospel の略）の会員となり、1887年（明治20）に来日した。来日後は、日本語を習得し、宣教師として励んだ。傍ら監督付チャプレンも務め、在日イギリス人の牧会に当たった。また、イギリス公使館付チャプレンとなり、半蔵門の公使館にも勤務する。ほかに芝罘町（今の港区芝

公園）の聖アンデレ教会と隣接の聖安得烈（アンデレと読む）神学校、聖安得烈英語夜学会で教鞭を取った。神学校は、ピカステス師の指令で授業はすべて英語であったが、学生の中には、英語力の弱い者もいて、夜学会はそれを補った。また、東京専門学校（早稲田大学の前身）でも英語と英文学を教えた。さらに自ら創設した牛込区（今の新宿区）岩戸町にあった岩戸英和倶楽部でも英語の指導をした。このようにチャモレー師は、英語教育を日本宣教の一手段とした。

1894年（明治27）に牛込昇天教会の牧師となり、今の聖バルナバ教会（現存している）として再生させた。また、スラム街救済事業として芝区在の新網町講義所（今の浜松町駅近くにあった）、愛隣小学校の活動も支えた。東京以外の宣教活動は、相州（今の神奈川県）の小野、中津、秦野や千葉の下福田、大多喜まで行っている。特に1895年（明治28）の秦野の聖路加教会の開堂に尽力した。さらに小笠原伝道に力を入れ、1894年（明治27）から15年間に12回、休暇の帰英期間を除き毎年一度、約一月間滞在了。そして、1922年（大正11）故国イギリスに帰った。帰国後は、小教会の牧師を務め、1945年（昭和20）に逝去した。87歳だった。

本書は、来日後の1888年（明治22）1月1日から始まり、1900年（明治33）12月31日までであり、都合13年間の日記である。その後の日記は、今後発行予定。毎日の日記は、簡潔に書かれている。それにしても、彼が会った人の多いこと、その氏名をきちんと書き取り、記録していたのではあるまいか。この人名を名取氏たちは、注記として説明しているが、さらに巻末に人名索

引も付けている。これは、本書に10回以上出てくる人名録で、その数は日本人と外人を合わせて、170人にも及ぶ。明治時代の日本宣教の実際を、読むことができる貴重な文献である。また、巻頭にチャモレー師の写真や生家の聖マリア・マ

グダレン教会(垣内司祭が訪問した記念)、昔の牛込聖バルナバ教会、小笠原聖ジョージ教会の写真などがある。(A5判588ページ、本体3000円+税 聖公会出版)
 <いさやま ていichろう・日本聖公会文書保管委員>

再録

『こえ』 第70号(2015年11月)
 日本聖公会中部教区名古屋学生青年センター

野村潔総主事を悼む

名古屋学生青年センター総主事テモテ野村潔司祭は、肺がんにより、2015年9月10日夕刻逝去されました。63年の生涯でした。若いころの患部に再発があり、この2年ほど名古屋大学病院で抗がん治療にあたっていました。苦しい副作用との闘いのなか、わずかでも和らぐ時があれば、学生青年センター職員や教会の皆さんと「希望」を語り続ける気力をこめた姿がありました。そんな彼を神はお取りになりました。急なことでした。今もニコニコと、重いカバンを引っさげて現れる気がします。

野村さんは秋田の出身。東京の大学を経、聖公会神学院の課程を修了後、1980年4月に名古屋学生センター(当時)に就任しました。よく、塚田理司祭(後に立教大学総長)に「のせられたあ」と笑っていましたが、その上「センターはあらゆる可能性を秘め、君がしたいことは何でもできる」とそそのかされたとの逸話も。ところが当時の学生センターは財政的に立ち行くかどうかの状態でした。もともとカナダ聖公会のミッションとして1957年にスタートしたセンターは、その運営費ほとんど全額をカナダ聖公会に負っていましたが、70年代に入ると、財政的自立を求められており、野村さんはその渦中に放り込まれたわけです。

センターは聖公会中部教区に直属する宣教機関でありながら、当時その位置づけは決して高くなく、財政的にもセンターを維持する力量は十

分ではありません。また、既成教会に対する批判的なセンター活動や学生の鋭い指摘は、煙たがられたり反発を呼ぶような、溝のようなものがありました。

創設時から15年ほど主事を務めたブルース・マッチ司祭の時代、センターは多くの学生でにぎわいました。その背景を一言でいえば知的な「飢え」のようなもので、学生たちは生き方を託するに足る思想に飢えていました。冷戦、核戦争の危機、アジア・アフリカの民族独立闘争、公害・環境汚染による生命の破壊。世界の混迷・緊迫は日本社会をも覆い、思想界・大学・キリスト教界も世界的な思想・知性の混迷から無縁ではありませんでした。センターでは、その葛藤の中でイエス・キリストとの出会いを経験した者も多数ありました。しかし、80年代には大学での学生生活の様相はがらりと変わり、センターでも潮が引くように学生がいなくなりました。結果的に、教会・社会での指導的な役割を担う学生キリスト者養成を主眼とした、この宣教の場は限界を迎えていました。

野村さんがセンターの建て替えを決断したのは、就任3年後のことです。落成が86年3月。とても素早い。この一連の事業展開に野村さんの真骨頂があります。新センターの構造は、オフィス2室、ロビー、礼拝・集会に使用するホール、アジアの留学生を想定した28室のアパート、学生の集会・宿泊に供する大小5つの畳貸室、大き目の浴室、職員居住の1室、テナントの貸店舗、8台分の駐車場。

これは働くための空間であることはもちろん、資金を生み出す場でもある構造です。彼は新しいセンターの活動構想を具体的に描き、構造にそれを具現しています。また、この建築のため

市中銀行から1億4千万の借入をやったのけました。当時の聖公会だけでなく、社会・市民運動面でも驚くべきことです。初期センターの活動がイデオロギー的・観念的側面が強かったとすれば、野村さんは「人・資金・施設」という具体的な裏付けが伴っていてこそ、差し迫った「人間の現場」、尊厳が奪われている人びとの現場に迫ることができるという確信がありました。亡くなるまで35年間、彼の働きを貫く基本的な方法論でした。

彼は主イエス・キリストに遣わされて、いくつもの「人間の現場」に入り込み、その人びとの傍らに座り込み、働き人に出会い、ネットワークをつくり、そして次の現場を見据えるのでした。その姿勢がぶれるような気配を見せたことはありません。

せんでした。この運動に共鳴し、招かれた人、つながった人々はおびただしい数になります。よく、「あいつはすごい!」と新しい出会いを喜んでいましたが、中でも池住圭さんという協働者と出会ったことは非常に大きかった。野村さんの働きはセンターからスタートしましたが、そのころ既に視線はその枠をはるかに超え、教区だけでなく聖公会全体、日本社会、東アジア、世界をとらえていました。

彼にはやり残したことが沢山あり、無念極まりなかったに違いありません。それでも彼は従容として旅立ちました。

それまで神が示される道に従って生きて来たように。

(清 公一・名古屋学生青年センター運営委員長)



日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.orgprovince/>
 ☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメールでお寄せください。